



Film Director

# Andrzej WYAJDA

映画監督

アンジェイ・ワイダ

2024年12月10日[火] - 26日[木] 会期中の休館日: 月曜日

国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU[2階]

定員=310名(各回入替制・全席指定席) / 各回の開映後の入場はできません。

主催: 国立映画アーカイブ、アダム・ミツキエヴィチ・インスティテュート

協力: 日本美術技術博物館 Manggha、マーメイドフィルム、ポーランド広報文化センター

(上映会番号479)



# 映画監督 アンジェイ・ワイダ Film Director Andrzej Wajda

「ポーランド派」の若き筆頭監督として『地下水道』(1957)や『灰とダイヤモンド』(1958)で世界の映画界に新風を巻き起こし、後には『大理石の男』(1977)や『鉄の男』(1981)を発表して当時の社会主義体制にも抗いながら、ポーランドがたどった苛酷な歴史の雄弁な語り手として、またポーランド文学の名作をたびたび翻案して壮大な物語世界を築き上げてきた巨匠アンジェイ・ワイダ(1926-2016)。

本特集は、2019年に日本美術技術博物館Mangghaのコレクションを中心とする貴重な資料群をもとにクラクフ国立美術館で開催されたワイダ展の初の外国巡回が実現するのを機に、長篇デビュー作の『世代』(1954)から、ワイダが築いた日本との深い関係を示す後期作品『ナスターシャ』(1994)までの14作品(14プログラム)を厳選して上映します。また、本特集と連動した展覧会のキュレーターをつとめたポーランドの映画史家ラファウ・シスカ氏(ヤギェロン大学視聴覚芸術研究所教授)による講演会を開催します。ワイダの新たな作家像の発見に立ち会おうとともに、その作品世界の豊穡さをご堪能ください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

- 監督・演出 ● 原作・原案 ● 脚本・脚色
- 撮影 ● 美術 ● 音楽 ● 出演
- 外国語映画にはすべて日本語字幕が付いています。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。
- ★印の回は講演等のイベントがあります。
- NEWとある作品はニュープリントでの上映です。

1 12/10(水)15:00 12/24(水)15:00

## 世代(88分・DCP・白黒)

*Pokolenie*

第二次世界大戦時、ナチスドイツ支配下のワルシャワ。貧民窟に育ったスタフ(ウォムニツキ)はドイツ軍から石炭を盗み生計を立てていたが、母親の願いもあり、工場で真面目に働き始める。だが反ナチの抵抗運動に身を捧げる女性ドロタ(モドジンスカ)を愛したことが彼の人生を転換させていく。ワイダの記念すべき長篇デビュー作であり、『地下水道』『灰とダイヤモンド』へと続く「抵抗三部作」の第1作。デジタルリマスター版を上映。

1954(ポーランド：劇映画製作所(ヴロツワフ)) ● アンジェイ・ワイダ ● ボフダン・チェシュコ ● イェジ・リブマン ● ロマン・マン ● アンジェイ・マルコフスキ ● タデウシュ・ウォムニツキ、ウルシュラ・モドジンスカ、タデウシュ・ヤンチャル

2 12/11(木)19:00 12/25(木)15:00

## 地下水道(98分・DCP・白黒)

*Kanalka*

大戦末期のワルシャワ蜂起を題材に、ナチスの包囲網を逃れるべく地下水道に追い込まれていくポーランド国内軍の兵士たちの姿を描く。原作・脚本のスタヴィンスキをはじめ実際に蜂起に参加した人間がスタッフ、キャストとして携わり、ポーリッシュ・リアリズムの先駆的傑作と評されるが、単なる事実の再現にとどまらないワイダ特有の美意識がすでに窺える。カンヌ国際映画祭審査員特別賞受賞。デジタルリマスター版を上映。

1957(ポーランド：映画制作集団(カドル)) ● アンジェイ・ワイダ ● イェジ・ステファン・スタヴィンスキ ● イェジ・リブマン ● ロマン・マン ● ヤン・クレツツ ● ヴィエンチスワフ・グリンスキ、テレサ・イジェフスカ、タデウシュ・ヤンチャル

3 12/11(木)14:00★ 12/26(木)15:00

## 灰とダイヤモンド(105分・DCP・白黒)

*Popiół i diament*

大戦が終結し、ナチスドイツからソ連の支配へと移行したポーランド。ロンドン亡命政府派の青年マチュク(ツイプルスキ)は労働党の要人暗殺の指令を受けるが、誤って別人を射殺してしまう。反政府運動に参加した作家イェジ・アンジェイェフスキの小説の映画化で、詩的な暗喩表現や主人公のキャラクターなど、フランスのヌーヴェル・ヴァーグやニューハリウッドの作品群にも多大な影響を与えた。ヴェネチア国際映画祭批評家連盟賞受賞。デジタルリマスター版を上映。

1958(ポーランド：映画制作集団(カドル)) ● アンジェイ・ワイダ ● イェジ・アンジェイェフスキ ● イェジ・ヴィチク ● ロマン・マン ● スビグニェフ・ツイプルスキ、エヴァ・クシジェフスカ、ボグミウ・コピェラ

★印の回は上映後にラファウ・シスカ氏(ヤギェロン大学視聴覚芸術研究所教授)による講演(約60分、逐次通訳付き)があります。

4 12/14(土)16:00 12/18(水)15:00 12/26(木)19:00

## ロトナ(88分・35mm・カラー)

*Lotna*

ドイツ軍によるポーランド侵攻が始まるなか、貴族に飼われていた一頭の牝馬が、その美しい姿に魅了されたポーランド騎兵隊に波乱を呼び起こしていく。ワイダ初のカラー映画であり、ポーランド騎兵隊の将校を父にも彼の思いが色濃く表れた作品。演出面ではあえて史実と異なる描写を入れるなど、シンボリックな世界観の深化が見て取れる。

1959(ポーランド：映画制作集団(カドル)) ● アンジェイ・ワイダ ● ヴォイチェフ・ジユクロフスキ ● イェジ・リブマン ● ロマン・マン ● ヴォイニェツ ● タデウシュ・ペアド ● イェジ・ビヘルスキ、アダム・パヴリコフスキ、ボジェナ・クロフスカ

5 12/10(水)19:00 12/20(金)14:00

## 夜の終わりに(88分・DCP・白黒)

*Niewinni czarodziej*

『灰とダイヤモンド』の原作者アンジェイェフスキと60年代以降のポーランド映画新世代を代表するイェジ・スコリモフスキの共同脚本を得て撮られた意欲作。ワルシャワの街で出会った若い医師(ウォムニツキ)と娘(スティパウコフスカ)の恋の駆け引きに焦点を絞った脱政治劇的な一作だが、「雪どけ」後のワルシャワの都市風景とそこに生きる若者たちを捉えた視点には、依然として鋭利な同時代批評が息づいている。デジタルリマスター版を上映。

1960(ポーランド：映画制作集団(カドル)) ● アンジェイ・ワイダ ● イェジ・アンジェイェフスキ、イェジ・スコリモフスキ ● クシシュトフ・ヴィニェヴィツ ● レシェク・ワイダ ● クシシュトフ・コメダ ● タデウシュ・ウォムニツキ、クリスティナ・スティパウコフスカ、スビグニェフ・ツイプルスキ

6 12/14(土)19:00 12/21(土)19:00

## サムソン(118分・DCP・白黒)

*Samson*

ナチスドイツによるポーランド侵攻を機に、ユダヤ人の迫害やゲッター蜂起の鎮圧といった戦時下の苛烈な歴史が、青年ヤクブ(メルラン)の人生を翻弄する。『地下水道』などの初期作では、抗い得ないものとしての「歴史」が前面に押し出されていたが、本作では歴史の背後に息づく人間の苦悩が詩的なイメージを伴って掘り下げられる。地下活動に身を投じる共産主義者たちに導かれ、死さず厭わなくなったヤクブの強さが、旧約聖書の英雄サムソンに重ね合わされる。35mmプリントをHD化した版を上映する。

1961(ポーランド：映画制作集団(カドル)) ● 映画集団(トロカ) ● アンジェイ・ワイダ ● カジミェシュ・プランティス ● イェジ・ヴィチク ● レシェク・ワイダ ● タデウシュ・ペアド ● セルジュ・メルラン、アリナ・ヤノフスカ、エルジュビエタ・ケンピンスカ



世代 ©WFDiF



灰とダイヤモンド ©WFDiF



夜の終わりに ©WFDiF



地下水道 ©WFDiF



ロトナ ©WFDiF



サムソン ©WFDiF



7 12/12(木)15:00 12/18(水)19:00

### すべて売り物(100分・DCP・カラー)

Wszystko na sprzedaż

監督のアンジェイ(ワビツキ)をはじめとする映画スタッフたちは撮影のために主演俳優を待っていたが、彼は一向に現れず、仕方なくアンジェイが代役を務めることになる。その後、主演俳優はまるで映画の内容をなぞるように事故死したことが判明する。虚構と現実を攪拌させながら、映画製作の裏側を描いた本作は、ワイド作品で重要な役割を果たした名優ズビグニェフ・ツィプルスキの死の2年後に公開された。ワイド自身、最もパーソナルな作品のひとつと語っている。デジタルリマスター版を上映。

1968(ポーランド:映画制作集団(カメラ))◎アンジェイ・ワイド◎ヴィトルト・ソボチンスキ◎ヴィェスワフ・シチャツキ◎アンジェイ・コジンスキ◎アンジェイ・ワビツキ、ベアタ・ティシュケヴィッチ、エルジュビェタ・チジェフスカ

8 12/15(日)13:00 12/19(木)19:00

### 白樺の林(95分・35mm・カラー)

Brzezina

『尼僧ヨアンナ』(1961、イェジ・カヴァレロヴィッチ)の原作者としても知られるヤロスワフ・イヴァシュキェヴィッチによる短編小説を映画化。病を煩っていたスタニスワフ(ウカシェヴィッチ)が、小さな娘と二人で森に暮らす兄・ボレスワフ(オルブリフスキ)のもとへ帰郷する。やがて隣家に住むマリナ(クラコフスカ)をめぐる兄弟による欲望の揺蕩が、生と死の主題を交えて描かれる。初期の激情的なイメージとは異なるワイドの叙情的な側面が国内外の観客に高く評価された。

1970(ポーランド:映画制作集団(トル))◎アンジェイ・ワイド◎ヤロスワフ・イヴァシュキェヴィッチ◎ジグムント・サモシユク◎マチェイ・フトフスキ◎アンジェイ・コジンスキ◎ダニエル・オルブリフスキ、オルギェルト・ウカシェヴィッチ、エミリア・クラコフスカ

9 12/13(金)14:00 12/20(金)18:10

### 大理石の男(161分・DCP・カラー)

Człowiek z marmuru

スターリニズムが隆盛をきわめた1950年代に労働英雄として大理石像にもなった男の実像を、彼に興味を抱いた映画学校の女子学生(ヤンダ)の目を通して解き明かしていく。ポーランド現代史の洗い直しとともに、国家と個人の関係を鋭く問うたワイド渾身の力作。ポーランド国内で大ヒットを記録しながら当局によって2年間の海外上映禁止処分を受けた。一方でカンヌ国際映画祭では国際映画批評家連盟賞を受賞した。デジタルリマスター版を上映。

1977(ポーランド:映画制作集団(イクス))◎アンジェイ・ワイド◎アレクサンデル・シチボル=リルスキ◎エドヴァルト・クウォシンスキ◎アラノ・スタルスキ◎アンジェイ・コジンスキ◎イェジ・ラジヴィウオヴィッチ、クリスティナ・ヤンダ、タデウシュ・ウォムニツキ



大理石の男

©WFDiF

10 12/15(日)16:00 12/19(木)15:00 12/24(日)19:00

### ヴィルコの娘たち(116分・35mm・カラー)

Panny z Wilka

親友の死をきっかけに青春を過ごした田舎の地を訪れたヴィクトル(オルブリフスキ)は、親しかった姉妹に再会するが、彼が想いを寄せていた女性はすでにこの世を去り、他の娘たちも歳月を経てかつての面影を失っていた。『白樺の林』と同じくイヴァシュキェヴィッチの小説の映画化。政治色は薄いのが、1930年代のポーランドを舞台に戦争を挟んで変化していく人間の心の機微を叙情的に描き、アカデミー外国語映画賞にノミネートされた。

1979(ポーランド:映画制作集団(イクス))◎アンジェイ・ワイド◎ヤロスワフ・イヴァシュキェヴィッチ◎ズビグニェフ・カミンスキ◎エドヴァルト・クウォシンスキ◎アラノ・スタルスキ◎カール・シマノフスキ◎ダニエル・オルブリフスキ、アンナ・セニク、クリスティナ・パスカル

11 12/12(木)19:00 12/22(日)16:00

### ザ・コンダクター(102分・35mm・カラー)

Dyrygent

著名な指揮者ジョン・ラソツキ(ギールグッド)は、かつて愛した女性の娘で故郷の交響楽団に所属するヴァイオリニストのマルタ(ヤンダ)に出会い、楽団の各演指揮者を務めることになるが、それがマルタと夫アダム(セヴェリン)の関係に変化をもたらしていく。男女の愛情劇を描きながら、芸術文化に対する当局の姿勢を暗喩的に批判した作品。ポーランドの家系をもつ英国の名優ジョン・ギールグッドを主演に迎え、ベルリン国際映画祭ではアンジェイ・セヴェリンが銀熊賞を受賞した。

1980(ポーランド:映画制作集団(イクス))◎アンジェイ・ワイド◎アンジェイ・キヨフスキ◎スワヴォミル・イジャク◎アラノ・スタルスキ◎ジョン・ギールグッド、クリスティナ・ヤンダ、アンジェイ・セヴェリン

12 12/13(金)18:20 12/22(日)12:10

### 鉄の男(154分・DCP・カラー)

Człowiek z żelaza

グダニスク造船所のストライキを題材に、当局の意を受け労働者たちに接触する記者の取材を通して連帯運動の経過を描く。『大理石の男』の後日譚として前作の二人を再び主人公に据えた(ラジヴィウオヴィッチは父と息子の二役を演じる)大作で、当時高揚期にあった連帯運動の関係者を出演させるなど、抵抗の歴史と同時代の運動に対するワイドの強い共鳴の意志が見て取れる。カンヌ国際映画祭パルム・ドール受賞。デジタルリマスター版を上映。

1981(ポーランド:映画制作集団(イクス))◎アンジェイ・ワイド◎アレクサンデル・シチボル=リルスキ◎エドヴァルト・クウォシンスキ◎アラノ・スタルスキ◎アンジェイ・コジンスキ◎イェジ・ラジヴィウオヴィッチ、クリスティナ・ヤンダ、マリアン・オパニヤ



ザ・コンダクター

©WFDiF



ヴィルコの娘たち

©WFDiF



鉄の男

©WFDiF

13 12/17(水)15:00 12/25(水)19:00

### コルチャック先生(118分・DCP・白黒)

Korczak

小児科医、作家、孤児院の院長としてナチスドイツによる迫害から孤児たちを守ろうと奮闘し、自身もホロコーストの犠牲者となったヤヌシュ・コルチャックの後半生を描く。ワイドが組織した映画制作集団(イクス)にも所属し、ポーランドを代表する映画監督となったアグニェシュカ・ホランドが脚本を手がけた。史実を再現する一方で、幻想的なラストシーンなど、ワイドは「映画による救い」を企図している。デジタルリマスター版を上映。

1990(ポーランド=ドイツ:映画集団(ベルスペクティヴァ))=レギーナ・ツィーグラール・フィルムプロダクション=テルマー・フィルム・インターナショナル=エルト・フィルムズ=ZDF=BBCフィルムズ)◎アンジェイ・ワイド◎アグニェシュカ・ホランド◎ロビー・ミュラー◎アラノ・スタルスキ◎ヴォイチェフ・キラル◎ヴォイチェフ・ブジニャク、エヴァ・ダウコフスカ、テレサ・ブジニャク◎クシジャノフスカ

14 12/17(水)19:00 12/21(土)16:00

### ナスターシャ(99分・35mm・カラー) NEW

ドストエフスキーの「白痴」にもとづく舞台劇を、舞台と同じワイドの演出、坂東玉三郎主演で映画化した作品。全篇をワルシャワの宮殿でロケ撮影している。ワイドは、長大な原作に描かれたドストエフスキーの「暗い秘密」を、三人の人物(玉三郎はナスターシャとムイシキン侯爵の二役を演じている)に集約させることで表現しようとしたと語っている。後期のワイド作品を支えたバヴェウ・エデルマンの撮影やワイドの妻クリスティナ・ザフファトヴィッチによる美術も印象的。

1994(エイチ・アイ・ティー=SAY-TO=テレビ東京)◎アンジェイ・ワイド◎フョードル・ドストエフスキー◎マチェイ・カルピンスキ◎バヴェウ・エデルマン◎クリスティナ・ザフファトヴィッチ◎坂東玉三郎、永島敏行

#### 展示室(7階)

【企画展】常設展「NFA」コレクションでみる 日本映画の歴史」も併設されています。

### 映画監督 アンジェイ・ワイド

Film Director Andrzej Wajda

2024年12月10日(火)ー2025年3月23日(日)

\* 月曜日および12月27日[金]ー1月5日[日]は休業

主催:国立映画アーカイブ

共催:日本美術技術博物館Manggha、

アダム・ミツキェヴィチ・インスティテュート

協力:クラブ国立美術館、ポーランド広報文化センター

『灰とダイヤモンド』などでポーランドから世界映画に新風を起し、『大理石の男』や『鉄の男』では政治体制にも抗いつつ壮大な物語世界を築いた監督アンジェイ・ワイド。本館で開催した展示内容に加え、日本との関係を示す独自の章を加えてその作家像をたどりませう。

開室時間=11:00ー18:30(入室は18:00まで)  
料金(常設展・関連企画共通)=一般250円(200円)/大学生130円(60円)/65歳以上、高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方(付添者は原則1名まで)、国立美術館のキャンパスメンバーズは無料

- \* ( )内は20名以上の団体料金です。
- \* 学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、キャンパスメンバーズは入室の際、証明できるものをご提示ください。
- \* 当館が主催する上映会の観覧券(オンラインチケット「購入確認メール」またはQRコードのプリントアウト)をご提示いただくと、1回に限り団体料金も適用されます。
- \* 詳細は当該チラシまたは国立映画アーカイブのホームページをご覧ください。

国立映画アーカイブは、国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。

fiaf

FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



# 映画監督 アンジェイ・ワイダ

## Film Director Andrzej Wajda

12月	10 日	15:00 ① 世代 (88分)	19:00 ⑤ 夜の終わりに (88分)
	11 日	14:00 ③ 灰とダイヤモンド★ (105分)	19:00 ② 地下水道 (98分)
	12 日	15:00 ⑦ すべて売り物 (100分)	19:00 ⑩ ザ・コンダクター (102分)
	13 日	14:00 ⑨ 大理石の男 (161分)	18:20 ⑫ 鉄の男 (154分)
	14 日	16:00 ④ ロトナ (88分)	19:00 ⑥ サムソン (118分)
	15 日	13:00 ⑧ 白樺の林 (95分)	16:00 ⑩ ヴィルコの娘たち (116分)
	17 日	15:00 ⑬ コルチャック先生 (118分)	19:00 ⑭ ナスターシャ (99分)
	18 日	15:00 ④ ロトナ (88分)	19:00 ⑦ すべて売り物 (100分)
	19 日	15:00 ⑩ ヴィルコの娘たち (116分)	19:00 ⑧ 白樺の林 (95分)
	20 日	14:00 ⑤ 夜の終わりに (88分)	18:10 ⑨ 大理石の男 (161分)
	21 日	16:00 ⑭ ナスターシャ (99分)	19:00 ⑥ サムソン (118分)
	22 日	12:10 ⑫ 鉄の男 (154分)	16:00 ⑪ ザ・コンダクター (102分)
24 日	15:00 ① 世代 (88分)	19:00 ⑩ ヴィルコの娘たち (116分)	
25 日	15:00 ② 地下水道 (98分)	19:00 ⑬ コルチャック先生 (118分)	
26 日	15:00 ③ 灰とダイヤモンド (105分)	19:00 ④ ロトナ (88分)	

■★印の回は講演(約60分)があります。詳細は作品解説ページをご覧ください。

■各日11:00に開館します。



ナスターシャ

©1994 H.I.T., SAY-TO WORKSHOP Inc., and Television Tokyo Channel 12 Ltd. 写真提供：松竹



コルチャック先生

©WFDiF

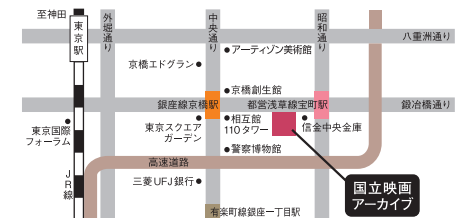
### ▶ チケット購入方法

	一般	高校・大学生・65歳以上	小・中学生	障害者手帳をお持ちの方(付添者1名まで)・キャンパスメンバーズ
チケット料金	1,300円	1,100円	900円	800円
オンライン販売	各上映日の3日前正午から各上映回の開映15分前まで			
窓口販売	各上映回の開映1時間前から5分前まで若干数販売			

- \* 電子チケットは、当館HPより公式チケットサイトにてオンライン販売します。
- \* 料金区分の違うチケットでは入場できません。差額のお支払で観覧することはできません。
- \* 学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、国立美術館のキャンパスメンバーズは証明できるものをご提示ください。ご提示のない方は入場できません。
- \* 未就学児、優待の方は「障害者手帳をお持ちの方または付添者等券」をお求めください。

### ▶ 入場方法

- \* 開場は開映30分前です。
- \* チケットのQRコードをスマホ画面、または印刷紙面でご提示ください。特集名、作品名はチケットに表示されませんので、お間違いのないようご注意ください。
- \* 各回の開映後の入場はできません。予告篇はございません。



国立映画アーカイブ 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

### ▼交通：

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分  
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分  
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分  
JR東京駅八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ：ハローダイヤル 050-5541-8600  
ホームページ：www.nfaj.go.jp



長瀬映像文化財団 国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

表紙：灰とダイヤモンド ©WFDiF